

形容詞についてのun-をめぐる考察*

五十嵐 海 理

▶キーワード

否定、形態論、語用論、
尺度

▼要 旨

周知のように、英語の接頭辞un-は形容詞に付いて形容詞（un-形容詞）を作るが、否定的な意味を持つ基体には付かないとされる。しかし、実際には例外が多く、また-able/-ed/-ingなど生産的な接尾辞が付いた形容詞には、その意味に関わらずun-を付けることができる。

本稿では、Jespersen (1917, 1942)、Zimmer (1964)、Allen (1978)、Cruse (1980)、Horn (2002, 2005)、西川 (2006) の分析を概観し、次の二点を主張するものである。(a) immaculate, unscathedなどの「汚れ・傷がない」ことを表すun-形容詞は尺度上で肯定の極を占め、形態的に関連した反対語を持たない。(b) un-の機能はこれまで「反対関係」(contrary)とされてきたが、「矛盾関係」(contradictory)と考えた方が整合的である。むしろ、「矛盾関係」から「反対関係」へと語用論的に転換されると考えるべきである。

1. Un-のついた形容詞

Jespersen (1917) で述べられた (1) の一般化についてはよく知られている。

- (1) Not all adjectives admit of having the negative prefix *un-* or *in-*, and it is not always easy to assign a reason why one adjective can take the prefix and another cannot. Still, the same general rule obtains in English as in other languages, that most adjectives with *un-* or *in-* have a depreciatory sense: we have *unworthy*, *undue*, *imperfect*, etc., but it is not possible to form similar adjectives from *wicked*, *foolish*, or *terrible*.

(Jespersen 1917: 144)

接頭辞un- (/in-) が形容詞に付加される場合、すべての形容詞に付加されるわけではない。それでも、un-を付加されると、その形容詞（以下、「un-形容詞」とよぶ）は一般的に否定的な意味をもつという。この一般化の正しさは（2）にみられる。（3）でun-は否定的な意味の形容詞をbaseとして取らないことも分かる⁽¹⁾。

- (2) a. …when taking an opening glance at Mr Greenholtz’s unwholesome face, … (Agatha Christie, *They Came to Baghdad*, 1951: 13)
 b. …and she couldn’t bare the thought that anything might make him unhappy, … (Sarah Morgan, *Million-Dollar Love-Child*, 2006:76)
- (3) a. *unill b. *unmiserable

また、（1）から予測されるように、否定的な意味を表す語にはそもそもun-が付いている場合が多い。たとえば、（4a）のunpleasant「不快な」という語は、（4b）にみるように、その類義語の多くがun-形容詞となっている。

- (4) a. That widow and her friends seem to be ganging up on him in a most unpleasant way.
 (Muriel Spark, *The Bachelors*, 1960: 113)
- b. unpleasing, unenjoyable; displeasing, disagreeable; unlikable, dislikable; abrasive, wounding, hostile, unfriendly; undesirable, unattractive, unappealing, unengaging, uninviting, unalluring; tacky *and* low rent *and* low ride <nf>; unwelcome, thankless; distasteful, untasteful, unpalatable, unsavory, unappetizing, undelicious, undelectable; ugly; sour, bitter
 (Roget’s *International Thesaurus*⁶, 2001; <nf> は non-formal の意)

（4b）では少なくともabrasive、wounding、hostile、tacky、low rent、low ride、ugly、sour、bitterのみがun-が付かない形である。これらは全て否定的な意味で、unhostileを除いて、un-のついた反意語もない。

しかし、un-形容詞が肯定的な意味を表す、つまり一般化に従わない例があることも、よく知られている。本稿ではこれを「un-の問題」と呼び、その性質を示し、解決を模索する⁽²⁾。

2. 「un-の問題」

1節の最後で述べたように、（1）で示した一般化に従わない例もある。これらを（5）-（7）で示す。Hornの例では、（7a）が中間的な意味を表すもの、（7b）が肯定的な意味を表すものである。

- (5) Jespersen (1942)
 unabsorbable, unadaptable, unanalyzable, unsusceptible, unabbreviated, unadapted, unadulterated, unavailing, unbefitting

(6) Zimmer (1964) (un-については-able/ible,-ed,-ingのものは除く)

In-: immaculate, impeccable, incorrupt, incorruptible, indefectible, ineffective, irreproachable

Un-: unbigoted, uncorrupt, undegenerate, unfaulty, unguilty, uninjurious, unmalicious, unobnoxious, unselfish, unsordid, untroublesome, unvicious, unvulgar, unbitter, unhostile, unpresumptuous, unpretentious

(7) Horn (2002)

a. imperceptible, irreducible, undecidable, uneaten/inedible, unexpired, unprefixable, unxeroxed/able, uncrossexamined, un-mouse-eaten

b. unbeaten, unbigoted, unblemished, undaunted, undefeated, undeterred, unharmed, unscathed, unsullied, untarnished, unblamable, unconquerable, incorruptible, indomitable, unimpeachable, unobjectionable, irreproachable, invulnerable

これらは否定的あるいは中間的なbaseについて肯定的 (positive) もしくは中間的 (neutral) な意味をもつ。ここから、(1) がun- 形容詞について一般化たりえているのか疑問である。また、一般化が否定的・肯定的という二分法なので、中間的な意味のものが多くなると記述できない。そこでZimmer (1964) は (8) のより限定的な否定接辞付加の規則を提案している。

(8) Zimmerによる (1) の一般化の修正版

Negative affixes are *not* used with adjectival stems that have a “negative value” on evaluative scales such as “good – bad,” “desirable – undesirable”. (Zimmer 1964: 15)

(8) ではun- 形容詞のbaseは否定的な値をもつものであってはならないとしている。(7) で示した中間的な意味のun- 形容詞のうち生産的な接尾辞が付くものは (9a) のように排除される。それ以外の少数の肯定的・中間的意味を表すun- 形容詞は (9b) のように接辞付加ではなく、ひとつの語として語彙項目に登録されていると考えるわけである。

(9) a. -able、-ed、-ingのような生産的な接辞がついたbaseにun-が付加される場合は、(8) の一般化の限りではない。

b. baseに否定的な意味の形容詞があつてun- 形容詞が否定的な意味にならないものは、(rule-governedではなく) lexicalなものとして語彙の中に取り込まれる。

(Zimmer (1964:85) ; (9a) はJespersen (1942)、Horn (2002) も同様)

しかし、Zimmer本人も示唆しているように、(9b) については、un- 形容詞として記されているものが辞典によって異なり、どのun- 形容詞を語彙項目に入れるべきか分らない。たとえば『ジーニアス英和大辞典』ではungreedyという語があるが、これはOED²でも記載がない。しかし、実例がなくはない。Googleで検索した84件の中で、*Tatler*という雑誌のお薦めレストランの文章から引く⁽³⁾。

- (10) Nadra gives good fish soup, a lovely Thai-inspired swordfish and clam green curry and grilled lobster with noodles. Prices are fair and the wine mark-ups refreshingly ungreedy.

(www.tatler.co.uk/.../2007/Details.aspx?Category=Fish&ID=2867&PriceRange=0&PostCode=All)

『ジーニアス英和大辞典』では「食欲さのない」という語義が与えられているが、(10)では紹介しているお店のワインが「あまり高価ではない」ことを言っている。(9b)ではこうしたことは説明されない。

また、(9a)についても、なぜ-able/ible,-ed,-ingが付加された形容詞は、意味の肯定・否定に関わらず、un-を付加できるのか明らかではない。3節で見るように、un-接辞についての言及がある文献を見ても、これらの形容詞は一般化の例外として述べられているだけである。

3. 最近の研究とその問題点

3.1 西川 (2006)

西川 (2006) は英語の接辞についての包括的な研究である。否定接辞はun-の項がもっとも詳しいが、(11)に引いておく⁽⁴⁾。

- (11)a. 意味: 基本的に否定 (negative) の意味を表すが、その内容は多様である。否定 (not)、反対 (opposite)、逆 (contrary, reverse) の意味を表す。また、動詞の後について元に戻す (undo) の意味をもつ。
- b. 語法説明: ...また、基体になる形容詞は好ましからざる意味を示すものには付きにくい傾向がある (cf. *unbad, *unveil, *undishonest, *undirty)。これは語形成過程上の阻止 (blocking) 現象と関係が深く、以前からあって既得権をもつ同意義、無標の語が優先されるがゆえにこの種の新造語は一般に受け入れられ難いのである。

(西川2006: 141-142)

(11) について、次の問題点が指摘できる。un-形容詞が否定的な意味を持ちやすいということについては、阻止 (blocking) の影響だとしている。しかし、たとえばclean/dirtyならば、それぞれun-のつかない反対語がある。*undirtyがcleanによって阻止されるなら、uncleanがdirtyによって阻止されてもいいはずである⁽⁵⁾。Zimmer (1964: 80) によれば、否定接辞のつかない形容詞のうち、肯定的な意味のものと否定的な意味のものはほぼ同数であるから、阻止が両方向に働かない理由を示さないのは不適切である。

3.2 Horn (2002, 2005)

ここでHorn (2002, 2005) でのun-形容詞の扱いを説明する。出版年次の若いHorn (2002)

を使う。Hornのun-形容詞の説明では、Cruse (1980) の尺度の考え方を採用する。Cruseでは段階的形容詞を2種類に分類している。

- (i) Antonyms (*long/short*)
- (ii) Gradable complementaries (*clean/dirty*)

(i) と (ii) の特徴を、次のようにまとめることができる。まず、half (semi-) や almost のような尺度を要求する副詞類をつけると、(12)–(13) から antonyms では不適格なのに対して、(14)–(17) の gradable complementaries では肯定的な意味を持つ方は適格である。

- (12) a. ?It's half-long. b. ?It's almost long. c. It's long.
- (13) a. ?It's half-short. b. ?It's almost short. c. It's short.
- (14) a. It's half-clean. b. It's almost clean. c. It's clean.
- (15) a. ?It's half-dirty. b. ?It's nearly dirty. c. It's dirty.
- (16) a. It's semi-accurate. b. It's almost accurate. c. It's accurate.
- (17) a. ?It's semi-inaccurate. b. ?It's almost inaccurate. c. It's inaccurate.

((12)–(17): Cruse 1980: 18)

(14)–(17) で分かることは、almost など極限値を修飾する副詞がつく (14) (16) の clean や accurate などは、尺度上での片方の極を表すということである。たとえば clean であれば、達成すべき綺麗さの程度があり、そこまで達していなければ、clean とは言えない (almost clean であったり、half-clean であったりする)。それに対して dirty は様々な程度で汚くなる可能性がある。同じことは accurate にも言え、データが正確であるとは誤りがないことであり、「大体正しい」という状態は accurate であるとは言えない。また、誤りがあれば、その多寡にかかわらず、inaccurate である。

ここから gradable complementaries と antonyms を区別するもうひとつの特徴として、gradable complementaries では antonyms と違い (18)–(19) のような分布があることがあげられる。

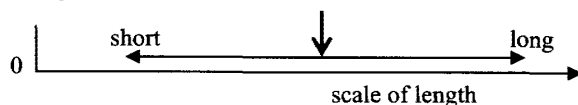
- (18) a. When something is clean, there is a complete absence of dirt.
 b. ?When something is dirty, there is a complete absence of cleanness.
- (19) a. When something is accurate, there is a complete absence of inaccuracy.
 b. ?When something is inaccurate, there is a complete absence of accuracy.

((18) (19): Cruse 1980: 19–20)

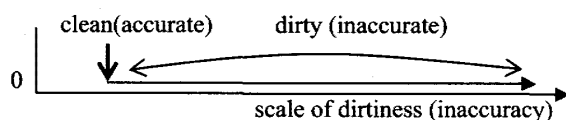
Long/short のような antonyms では、一方が他方を全く含まない。ところが、(18b) にみられるように、dirty であっても、まったく clean なところがないとまでは言えない。(19b) でも同じように、inaccurate であっても、データの全てが誤りとは限らない。誤りがたった一つなら、accurate なところがあったとは言えない。こうしたことから、Cruse (1980) では以下のよ

うな尺度を考えている（説明のため一部改変した）。

(20) Antonyms



(21) Gradable complementaries



(20) では長さの尺度（How LONG...?のような場合のlongはこちら）が右へ伸びていて、その内部の尺度は絶対的な長さの尺度ではなく、基準点（↓で表示）の左右にそれぞれshort/longの尺度が出来ている。(21) では汚さの尺度があり、左に0と書かれている部分は汚れが全くない状態である。その内部の尺度では左側の極点にcleanが置かれ、そこが基準点（↓）になっている。基準点から外れることは汚さを含むことになり、その程度が右に向かって（より汚い方へ）大きくなっていく。こうした性質の尺度上の量（quantity of the scaled property）を表す尺度をQ尺度といい、肯定的なもの（「汚さ」を多く含むもの、ここではdirty）はQ-positiveであり、否定的なもの（ここではclean）はQ-negativeである。accurate/inaccurateも(21)と同様で、カッコで表示している。これに対して「綺麗な」ことは良い（肯定的な）ことであり、「汚い」ことは悪い（否定的な）ことであることについては、cleanが評価的（evaluative）に肯定的（E-positive）であり、dirtyが評価的に否定的（E-negative）であるという。Long/shortなら、longがE-positiveでshortがE-negativeである。ここまですべてを(22)の表にまとめる。

(22)

	E-positive (E-neutral)	E-negative
Q-positive	<i>long</i> (antonym)	<i>dirty, inaccurate</i> (complementaries)
Q-negative	<i>clean, accurate</i> (complementaries)	<i>short</i> (antonym)

以上を踏まえて、Horn (2002) では (23) のような定式化を行っている。

(23) Horn's formulation of *un*-Adjective:

negative affix + E-positive base → E-negative derived output
un + *happy* → *unhappy*

(Horn 2002: 6)

E-positiveな形容詞のみbaseになる。E-negativeな形容詞はbaseになれない。ここから、一般化を導き出せる。しかし、「un-の問題」について、Horn (2002, 2005) はJespersen (1942)

や Zimmer (1964) と同様、例外としてリスト化している。

3.3 〈基体は E-positive〉の検証

3.2 節でのべたように、Q-positive/-negative の値と un- が付くことができるかどうかは関係がないと思われる例はみつかる。(23) は Q-positive で E-positive な long に un- がついて unlong という形式を予測するが、確かに存在する⁽⁶⁾。また、clean は Q-negative で E-positive であり、(25) で unclean という形が確認できる⁽⁷⁾。

(24) These thumbnails cover my wardrobe evolution – from the first nervous steps out in crop top and jeans to unsubtle uniforms and unlong skirts. (Note that word unlong – you’ll find yourself using it soon).

(www.chimeric.demon.co.uk/diversity/image/overview.html)

(25) And there’s still this myth that you’re unclean if you have acne.

(BNC: C8B Best)

un-X-ed という形式でも、(26a) で finished が Q-negative で E-positive であり、unfinished は E-negative な意味になる⁽⁸⁾。(26b) は母語話者によれば不適切とのことであったが、(26c) の実例を見せると、(26b) の判断を変更した。(27) で、business が後続している。

(26) a. I put down the half-finished tea and stood up.

(Dick Francis, *Forfeit*, 1968: 91)

b. ³I put down the unfinished tea and stood up.

c. His mug of unfinished tea sat idly by the glowing alarm clock.

(http://www.greatwriting.co.uk/content/view/9640/77/1/1/)

(27) ‘We have unfinished business, *meu amorzinho*, as you well know.’

(Sarah Morgan, *Million-Dollar Love-Child*, 2006: 47)

さらに例をあげれば、これも gradable complementaries になる safe/dangerous では、unsafe/*undangerous のように適切に予測ができる。さらに Cruse (1986: 203-204) では、pure/impure, satisfactory/unsatisfactory, smooth/rough, honest/dishonest, well/unwell などが挙げられている。Q-positive で E-negative な方に impure, unsatisfactory, dishonest, unwell など否定接辞が付いているものが見られることも、整合的であるといえる。

3.4 Cruse と Horn から導ける予測

3.2、3.3 での議論から一歩進んで、(28) のような予測も可能である。

(28) もし E-positive な un- のついた形容詞で Q-negative なら、対応する E-negative な形容詞

にはun-が付かない。あるいは、対応するE-negativeな形容詞は使われない。

つまり、Q-negativeでE-positiveな形容詞としてun-形容詞が存在する、という主張である。たとえば(6b)のunscathedやunharmedであるが、(29)ではalmostがunscathedにつく。(21)の尺度を想定して、傷が付いていない状態が「傷がつく」という尺度の中で左の極に当たるとすると、その右には様々な傷付き具合の状態が表示される。scathedという語は形容詞として用いられることはあまりない。Googleで検索する限り、almostと共起することも皆無である。unharmedについても同様である。

(29)a. Much of Kabul, which was almost unscathed when it was the seat of the communist government, is in ruins. (BNC: *The Economist*)

(Google (ドメイン: uk) でalmost {unscathed/scathed} は667/0)

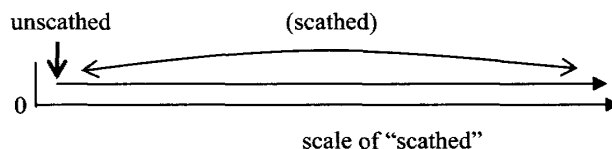
b. Two days later the hostages were freed unharmed.

(BNC: AN0 The Intelligence Game)

(Google (ドメイン: uk) でalmost {unharmed/harmed} は91/5)

また(5)でZimmer (1964)が挙げた例として紹介したimmaculate, impeccableも同様の解決が図れると思われる⁽⁹⁾。これらのun-/in-のついた形容詞は(14)–(27)で検討したclean/dirty, accurate/inaccurate, finished/unfinishedとは尺度の立て方が違っていることに注意しておきたい。

(30) Gradable complementaries



(30)の妥当性について、上記の議論では十分ではない。しかし、少なくともunscathed, unharmed, immaculate, impeccableでは、通時的にはともかく共時的には(30)のように初めからun-/in-がついた語のほうがE-positiveと感じられ、その反対であるE-negativeの語は想定されていないと考えることもできる。つまり、否定接辞は付いているが、baseとなる語があるような感覚は薄れているのであろう⁽¹⁰⁾。

3.5 un-形容詞で修飾される名詞と尺度

ここまで尺度について形容詞のみを考えてきたが、修飾される名詞も尺度と関係があると思われる。たとえば、(24)ではunlongという普通でない形が用いられるが、この表現でun-が肯定的な形容詞について否定的な意味を表すためには、long skirtsがそもそも肯定的な意味合いを持つのでなければならない⁽¹¹⁾。

- (24) These thumbnails cover my wardrobe evolution – from the first nervous steps out in crop top and jeans to unsubtle uniforms and unlong skirts.

形容詞＋名詞がひとつの評価の対象を成すという考え方は、Ljung (1974: 79-80) がすでに指摘している。彼によれば名詞が「内在的 (inherent)」に有している特徴にのみ無標の反意語は関係する、というのである。たとえば、a good king という言い方は、king の役割 (統治者) について good だと形容している場合に good/bad が antonyms になるが、king の人柄が good ならば、これは「親切的な、人の良い」という意味になり、bad の antonym にならない。(10) では prices を修飾しているので、価格の観点から ungreedy (「あまり高くはない」) なのである。

4. 生産的な接辞と un- の問題

最後に、生産的な接辞である -able/ible, -ed, -ing がついた base には自由に un- が付加されることについて、考えてみたい。(8) で述べた Zimmer の主張を (31) で繰り返す。

- (31) [= (8a)] -able, -ed, -ing のような生産的な接辞がついた base に un- が付加される場合は、(7) の一般化の限りではない。

(Zimmer 1964: 85)

(31) のような規則的な例外があることはどう説明できるだろうか。Allen (1978: 44-50) (太田 (1980: 673-674) に議論がある) の提案では、(32) のように、un- の付加は、その直前に付加された形態素のみに関係する。

- (32) a. *un- [dirty]

b. un- [[injury]-ous]

c. un- [[finish]-ed]

d. un- [[analyze]-able]

e. un- [[assume]-ing]

f. un- [[father]-ly] (I'll break his neck, he said, with real and unfatherly viciousness.

—Francis, *Forfeit*, 147)

(Allen 1978: 44-50、例は変えてあるが、分析は踏襲した)

(32a) は dirty がそのまますぐに un- に付加されるため、dirty の否定的な意味に un- を付加することは、(8) の一般化に抵触する。しかし、(32b)–(32e) は un- が他の接尾辞が付いてから付加される。たとえば injury が否定的な意味を持っていても、un- は injury に付加されるわけではなく、(injury) ous に付加されるので、一般化に抵触しないことになる。

この分析によって、(33) で示した un-X-able/-ed では un- は -able/-ed を否定しているとする Zimmer の主張を支持することができる。

- (33) a. X-able: “prone to...” “capable or deserving being...”

(e.g. *pronounceable* “capable of being pronounced”/ *unpronounceable* “not capable

of being pronounced”)

b. *X-ed*: “in the state brought about by undergoing the action designated by the verb”

un-X-ed: “not in the state brought about by undergoing the action designated by the verb”

(Zimmer 1964: 38)

つまり、un-はX-ableの-ableの部分进行否定する。un-X-edの場合は、-edが表す状態进行否定する。(32c)-(32d)はこうしたZimmerの直観进行支持する分析である。un-が付加される段階では、un-にはそれぞれ-edと-ableしか見えていない状態なので、生産的な語尾が付いていれば、baseの語の否定的な意味、肯定的な意味に関わらずun-が付加できる。

しかし、この分析に対する反例は容易に見つかる。すでに(5)で見たように、Zimmerのいうunguilty, unfaulty(但しunfaultyはGoogleでも31例のみ;『ジーニアス英和大辞典』ではunfussy, ungreedy, unflashyも肯定的な意味を持つ)も(32b)と同様に分析できる。しかし、そうなら、*undirtyも同じように分析されると想定でき、容認可能になると予測できる。ところが、(34)にみるように、容認不可能なのである。

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| (34)a. un- [[guilt]y] | b. *un- [[dirt]y] |
| a'. un- [guilty] | b'. *un- [dirty] |

(34)に示された容認度の違いは、(32)では説明できない。(32)で示された分析は-ed、-able、-ingについては有効であり、(5)-(7)で紹介した例外の多くがこれで解決できると思われるが、unguilty(を認めるとすれば)が可能な理由は説明してくれないことになる。

また、-able/ibleが付いたun-形容詞の中でも、(6a)のimperceptible(実例を(35)で挙げる)や(36)のinexpressible、(37)のunthinkableや(38)のunpronounceableは合成的でない意味を表すと考えられる。

(35) The CO's imperceptible sniff managed to express disapproval.

(BNC: ACE Willoughby's Phoney War by William Fox, 1991)

(36) The bellows nonchalantly swelled and thudded. Elizabeth gave the smallest sound of inexpressible relief. I lifted the Spirashell gently on to her chest, slipped the strap underneath her, and couldn't do up the buckle because my fingers were finally trembling too much to control.

(Dick Francis, *Forfeit*, 1968: 164)

(37) I shrugged. 'Someone has been working a fiddle.'

'Bert wouldn't.' His voice said it was unthinkable.

(Dick Francis, *Ibid.*, 44)

(38) "Dubroskie?"

"Local farmer, good man. Cousin's name was something unpronounceable. Polish, began with G."

(Barbara Fradkin, *Once Upon a Time.*)⁽¹²⁾

(35)は「感じるが出来ない」臭いではなく、「微小な、かすかな」臭いをかぐことで、一

酸化炭素の存在が知られるのである。(36)でも病気で自己呼吸が出来ないElizabethが機械の助けで呼吸できることに「表現できない」安心感を声にしたわけではない。「言葉に出来ないほど大きな」安心感が漏らした声にこもっていたのである。(37)でunthinkableは「考えられない」だけでなく、知りあいのBertが記者の特権を利用して詐欺をしていたなんて「ありえない」という気持ちを表している。(38)では「発音できない」名前ではなく、「発音がとても難しい」のである。(32d)と(33a)の分析では(35)-(38)を説明できない⁽¹³⁾。

5. 結語にかえて：意味論と語用論のあいだ

本稿では(8)の一般化に従わない形容詞を「un-の問題」と名付け、その解決を模索することを目標としていた。本稿では、[i] immaculate、impeccable、unscathed、unharmedについて、尺度での解決を示し、[ii] un-X-able/ible/ed/ingについては、Allen (1978)による構造的な分析を追認したうえで、それでも説明できない例を(35)-(38)で示した。[i] [ii]の解決を生かすためにも、un-形容詞について、一般的に(39)が成り立つという予測をしておきたい。

(39)予測：un-は基本的に否定(not)と同様contradictoryな意味を成す。Contraryな意味はbaseの形容詞に依存する。

(33)で示したZimmerの直観や(20)(21)(30)の尺度などを考えると、un-自体に意味を持たせるよりも、un-の意味は比較的単純な矛盾関係であると考えの方が、合理的である。その他の意味は語用論的に扱える。

こうした行き方はすでに影山(1999: 173)において、un-をNOTという矛盾関係のオペレータとした分析がある。また、Krifka(2007: 171ff)においても、反対関係自体は形容詞のあいまい性(vagueness)とHornのR推意とBlutnerの二方向最適性理論(Bidirectional Optimality Theory)から引き出そうとする分析があり、これとも整合的であるといえる。とくにKrifka(2007: 170)はhappy/sadではなく、happy/unhappyのときだけ、矛盾関係を意味論に規定する形を取る。つまり、Cruse(1980)の分析(20)(21)の↓の位置は変わりうる。元来、Krifka(2007)の立場はCruse(1980)と矛盾しない。Cruseでも↓はQ-の切れ目(cut)であり、尺度全体を肯定と否定の形容詞が二分している。従って、尺度はun-を矛盾と分析することを要求する。

注

- * 形態論に関心を持ったのは、筆者が敬和学園大学在職中に指導した荒井洋一君の複合語の研究を通してであった。記して感謝する。本稿の準備段階では立命館大学の出水孝典氏との議論が有益であった。草稿は神戸言語学研究会in Kyoto(2007年8月24日、龍谷大学)で発表の機会を得た。聴衆の皆様、コメントを下さった菅山謙正先生、出水孝典氏、吉村大樹氏に感謝する。完成してからも、第5回言語科学研究会(2007年10月14日、立命館大学)で立命館大学の児玉徳美先生、佐野まさき先生、海賓康臣氏、出水孝典氏、横浜国立大学の宗像孝氏からコメントを頂いたことに感謝する。英語語法文法学会第15回大会(2007年10月20日、大阪市立大学)で安藤貞雄先生からコメントを頂いたことも感謝したい。例文の一部は敬和学園大学のJames B. Brown教授に判断を仰いだ。記して感謝する。なお、本稿は頂いたコメントなどを元に五十嵐(2007)を修正したものである。

- (1) 接辞のつく語の名称については、stem, root, baseがあるが、本稿ではbaseを採用する。議論については Plag (2003: 10-11) を参照。なお、in- はim-, ir-, il-などの異形態を持つが、本稿では区別せずin-を用いる。またun-でun-とin-の両方を代表させる。
- (2) Huddleston and Pullum (2002: 1688) によると、形態的に無関係な反対語を持つ形容詞、とりわけgood/bad, big/small, strong/weak, deep/shallowはいかなる否定接辞も付けられないという。したがって*unbadが容認されないのは当然だが、*ungoodも容認されないので、西川 (2006) が (11) のように*unbadを挙げているのは適切ではない。またundishonestなどの否定接辞dis-にun-が付いたものも典型的な例だとは言えない。
- (3) インターネットから引いた例については、慣例に従いURLを記す。とくに言及がない限り、2007年9月のリンクである。ドメインはukを指定している。なお、BNCにはungreedyは一語も出てこなかった。
- (4) 例の中の*unbadについては注2を参照のこと。
- (5) また、unhappyはsadがあるにも関わらず阻止されない理由は何か、もしそれがhappy/unhappyとhappy/sadの二つの異なる軸が想定されているというなら、なぜLangendoen and Bever (1973) のようにnot unhappyと*not sadのような容認性の違いがみられるのかも疑問になってくる。
- (6) しかし、unshortも見られ、Googleではunshort: 38に対してunlong: 20と、unshortのほうが多くみられる。
- (7) この場合、uncleanはGoogleで10万件以上ほど出てくるが、undirtyは32件のみである。これは本文(8)の一般化によく合致しているといえる。
- (8) ちなみにClark (1974) によれば、goが一般に評価的に悪方向を表す表現を補部にとるとすれば、状態の継続を表すgoと共にgo unfinishedとはなるが、状態変化を表すcomeと*come unfinishedのように共に起こすことは難しい。また、finishedは完結したという時間軸上の一点を表すので、本文の(21)であれば↓の位置にfinishedがあると、その右に様々な未完の状態(unfinished)があると想定できる。なお、finishedは完了の意味であり、「完了していない(unfinished)」と否定しやすい、という指摘を横浜国立大学の宗像氏から受けた。
- (9) 寡聞にして指摘があるのか知らないが、辞典に形容詞として記載のあるものに限れば、少数ではあるが、次のようなパターンがある。
- i) unscathed/scathing, undaunted/daunting
 - ii) unassuming/assumed, unfailing/failed
- i) について『ジーニアス英和大辞典』の訳語を示す。
- [a] unscathed 「[叙述] 無傷の、痛手を受けていない」
 - scathing 「痛烈な、容赦のない、厳しい；(叙述) […に] 批判的な [about]」
 - [b] undaunted 「[通例叙述] 〈人が〉[…を] 恐れぬ、[…に] ひるまない、くじけない [by]；[…の点で] 大胆な」
 - daunting 「〈仕事などが〉人の気力をくじく (discouraging)、きつい (demanding)；おびえさせる (intimidating)」
- ii) について同辞典からの訳語を示す。
- [c] unassuming は「でしゃばらない、生意気でない、気どらない；控え目な」
 - [d] unfailing は「1 連続した、絶え間のない；2 常に変わらない；3 確かな、間違いのない」
- [a] [b] から分かるように、un-X-edでは合成的だった意味が、X-ingになると(通常、同根のun-X-ingは辞書に記載がない)非合成的な意味に転じている。[c] [d] では、X-edでは合成的だった意味が、un-X-ingになると非合成的な意味に転じている。
- (10) 否定接辞が付加された上にさらに否定接辞を付加して、「シミの多い」や「罪を犯しがちな」という意味の語を作ることは、un-un-Xやin-in-Xが許されないので不可能である。(anti-は繰り返すことができ、anti-anti-smokingでは「反・反・喫煙」という愛煙家の主張を表す)。
- (11) この点は佐野まさき先生の御教示による。
- (12) 例(38)は出水孝典氏の提供による。

(13) この接辞が付くことで idiosyncratic interpretation が現れることがある (Pesetsky 1985)。

参考文献

- Allen, M. R. 1978. *Morphological Investigations*. UConn PhD.
- Clark, E. V. 1974. Normal States and Evaluative Viewpoints. *Lg.* 50 (2), 316-332.
- Cruse, D. A. 1980. Antonyms and Gradable Complementaries. In: D. Kastovsky (ed.) *Perspektiven der lexikalischen Semantik*, 14-25.
- Cruse, D. A. 1986. *Lexical Semantics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Horn, Laurence. 2002. Uncovering the *Un*-word: A study in Lexical Pragmatics. *Sophia Linguistica*, 48: 1-64.
- Horn, Laurence. 2005. An *Un*-paper for the Unsyntactician. In: Mufwene, S. S., E. J. Francis, and R. S. Wheeler. (eds.) *Polymorphous Linguistics: Jim McCawley's Legacy*. Cambridge, Mass.: The MIT Press.
- Huddleston, R., and G. Pullum. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 五十嵐海理. 2007. 「un-のついた形容詞について」『六甲英語学研究』第10号, 8-27.
- Jespersen, O. 1917. *Negation in English and Other Languages*. Reprinted in *Selected Writings of Otto Jespersen*. 1959. Tokyo: Senjo.
- Jespersen, O. 1942. *A Modern English Grammar on Historical Principles, Part VI, Morphology*. Copenhagen: Munksgaard.
- 影山太郎. 1999. 『形態論と意味』東京：くろしお出版.
- Krifka, M. 2007. Negated Antonyms: Creating and Filling the Gap. In: U. Sauerland and P. Stateva (eds.) *Presupposition and Implicature in Compositional Semantics*. Houndmills, Basingstoke: Palgrave Macmillan.
- Langendoen, D. T., and Th. G. Bever. 1973. Can a not unhappy person be called a not sad one? In: S. R. Anderson and P. Kiparsky (eds.) *A Festschrift for Morris Halle*. New York: Holt Rinehart and Winston, Inc.
- Lieber, R. 2005. English Word-formation Processes. In: Stekauer, P., and R. Lieber (eds.) *Handbook of Word-Formation*. Dordrecht: Springer.
- Ljung, M. 1974. Some Remarks on Antonymy. *Lg.* 50 (1), 74-88.
- 西川盛夫. 2006. 『英語接辞研究』東京：開拓社.
- 太田朗. 1980. 『否定の意味』東京：大修館.
- Plag, I. 2003. *Word-formation in English*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Pesetsky, D. 1985. Morphology and Logical Form. *LI* 16 (2), 193-246.
- Zimmer, K. 1964. *Affixal Negation in English and Other Languages*. Supplement to WORD 20.